



豊かなまちづくりを

JICAボランティアが派遣前に訓練を受ける長野県のJICA駒ヶ根訓練所。
35年にわたって彼らを迎え入れてきた駒ヶ根市では、
市民にも国際協力の輪が広がっている。

[長野県]

駒ヶ根市



長野県駒ヶ根市

面積165.92km²。人口約3万3,000人。JICAボランティアの訓練所の設立に伴って国際交流が活発になり、市民主体でさまざまな活動に取り組む。ネパールへの中学生の研修旅行や職員の派遣を実施し、2001年にはボカラ市と国際協力友好都市協定を結ぶ。毎年秋には地域ぐるみの国際協力イベント「みなこいワールドフェスタ」をJICAなどと共催。

JICAボランティアのふるさと

長野県の南部、中央アルプスと南アルプスに囲まれた駒ヶ根市。登山の玄関口として毎年多くの人が訪れ、街中からふと目を遠くにやれば、白い雪を山頂に抱く雄大な景色が迫ってくる。実は駒ヶ根市は、日本の国際協力においてなくてはならない存在。なぜなら、1979年に開設したJICA駒ヶ根訓練所があるからだ。青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアたちが、現地に行く前に派遣国の言語や生活習慣などを学ぶ場所。これまで約1万5000人以上ものボランティアが世界各地へと飛び立っていった。

この訓練所の設立でJICAボランティアの卵たちとの交流が始まり、駒ヶ根市の人々にとって国際協力は身近なものになっていった。83年には駒ヶ根青年会議所が中心となり、「駒ヶ根協力隊を育てる会」を設立。市民から書き損じはがきや物品を集めるなどして、小さいながらもJICAボランティアを支える活動を地道に続けてきた。

その中でも大きく花開いたのが、ネパールとの交流だ。駒ヶ根で訓練を受けた青年海外協力隊員、半田好男さんがきっかけとなり、同国での識字教育などを支援するNGO「トカルバのひかり」を市民が立ち上げたのだ。また、市内の病院にネパール人医師を受け入れて医療技術の研修を行ったり、両国の市民が相互に訪問したりと、さまざま

国際協力で



市とJICAが地域ぐるみの国際協力について共に学ぶセミナーを開催するなど、新しい動きが始まっている



ボカラ市役所に協力隊員として派遣中の吉澤さん。この日は子どもたちとごみのリサイクルに取り組んだ

まな活動が行われている。協力隊OBでもあり、帰国後は地元駒ヶ根市職員になった塩澤真洋さんは、「訓練中は市内の農家や保育園などで活動する機会があり、地域の人々と接することも多い。その交流を通じて、自分たちも何かしたいと思う市民がたくさんいます」と話す。2001年、駒ヶ根市はネパール中部のボカラ市と国際協力友好都市として協定を締結。互いに多くの登山客が訪れる山岳観光都市として、知恵を分かち合いながら絆を深めている。

国際協力が市民も市も変える

今年1月には、市内の中学生8人が8日間の日程で首都カトマンズやボカラ市を訪れた。国際交流事業として95年に始まり、市内の中学生から希望者を募って派遣している。ネパールで行われている日本の国際協力の取り組みや文化の違いなどを学んでもらうのが目的だ。

「なぜ街の真ん中に牛がいるの？」
目に飛び込んでくる景色、街のざわつき、面白い。何もかも日本とは違う。青年海外協力隊OG

が支援している女性の地位向上を目指すNGOや、駒ヶ根市の「ネパール交流市民の会」が支援した病院などを視察。ネパール人の家庭にホームステイをし、学校で同年代の子どもたちとも交流した。

「ほつぺたをくつつけるあいさつが新鮮だった」「みんなのんびりしていて、日本とは時間の感覚が全然違った」と驚きを話す子どもたち。同行した駒ヶ根市立東中学校の深谷由美子先生は、「ホームステイでは自分でなんとかコミユニケーションをとるしかなく、日本での当たり前が当たり前ではないと身を持って学べたはず。それがどんな成長につながるか楽しみです」と期待を込める。

また市の職員にとっても、ネパールは成長の舞台。駒ヶ根市は人材育成の一環として、98年からネパールに職員を派遣している。現在は、青年海外協力隊員として吉澤啓太郎さんがボカラ市役所で活動中だ。「新しい環境で試行錯誤した職員たちは、調整力、企画力、忍耐力を身に付けて帰ってきました。自分の意見をより分かりやすく相手に伝えられるようポイントを絞って話すようになったりと変化が見られます」と総務部長の原尚尚さんは話す。

そんな駒ヶ根市が最近取り組み始めたのが、訓練所を生かした新しいまちづくり。国際協力を魅力の一つとして、訓練所を中心とした、国際交流エリアの開発などを、これからの10年で推進



開設35周年を迎えた駒ヶ根訓練所



市民主体で開かれる国際協力イベント「みなこいワールドフェスタ」では、途上国に飛び立つ前の訓練生もお手伝い

していく計画だ。日本全国、そして全世界へと飛び立ったJICAボランティアとのネットワークを生かし、日本の国際協力の拠点を目指していく。